

経営比較分析表（平成28年度決算）

熊本県 上天草・宇城水道企業団

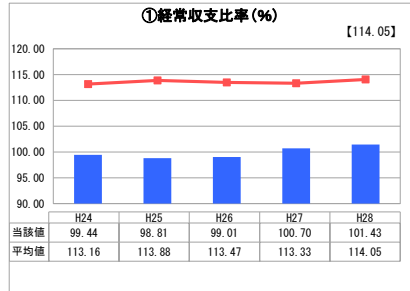
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	82.95	32.93	0	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
68,753	285.92	240.46

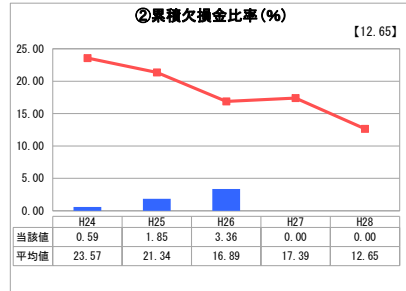
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

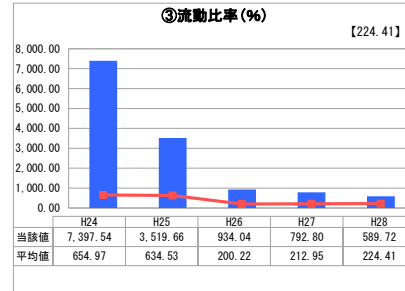
1. 経営の健全性・効率性



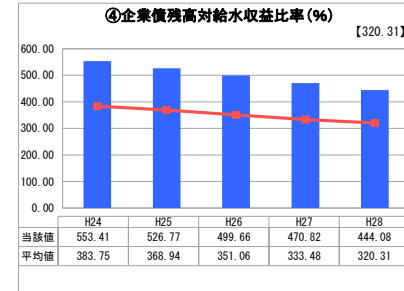
「経常損益」



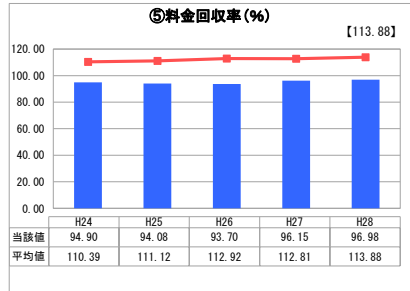
「累積欠損」



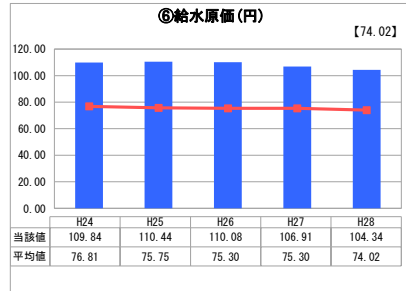
「支払能力」



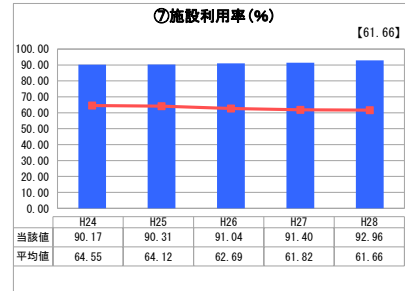
「債務残高」



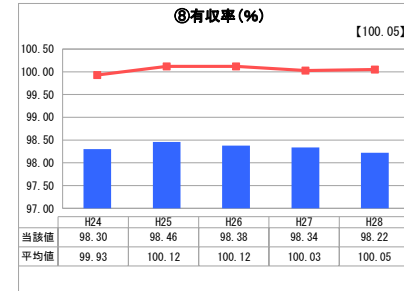
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

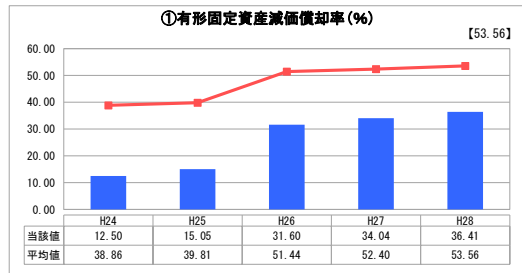


「施設の効率性」

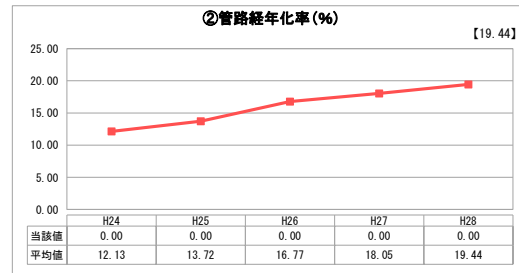


「供給した配水量の効率性」

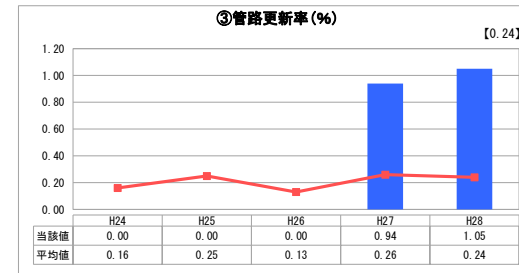
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成28年度の経営状況としては、経常収支比率が101.43%と100%を上回り、累積欠損金比率も2年連続で0となっている。ここ2年において何とか赤字経営に転換したものの、純利益は僅かである。短期的な支払能力を表す流動比率は589.72%と100%以上であり、流動資産が流動負債を上回っていることから、短期的債務に対する支払いは十分対応できると考えられる。料金回収率は、96.98%と100%を下回る状態が続いており、経営に必要な費用を料金で賄うことができていない経営状況であるといえる。給水原価は104.34円であり、類似団体平均値(74.02円)を大きく上回る水準となっているが、事業環境が異なることから、類似団体平均値の水準まで抑えることは現実的に困難と思われる。施設利用率については92.96%と類似団体平均値を大きく上回っており、効率的な施設運営ができているといえる。

2. 老朽化の状況について

熊本県企業局と4ヶ年計画で実施していた導水管強靱化(老朽管更新)工事(約3.4km)が、平成28年度に完了した。なお、送水管については老朽化の該当は無い。平成16年2月の供用開始から14年目となる当企業団の施設については、平成28年度に「更新基本計画(電気・計装・機械)」を策定したところである。今後は、計画に基づき設備改良及び更新事業を実施し、適切な施設の維持管理・運営を行っていく必要がある。

全体総括

「経常収支比率」及び「料金回収率」の数値が示すように、これまで3条予算による利益を生むことができず、資金確保が不十分であるといえる。今後、多額の費用発生が見込まれる改修・更新事業を確実に実施し、安定かつ健全な事業経営を維持するための財政収支計画を経営戦略により平成29年度に策定することとしているが、将来にわたっても持続可能な料金水準への見直しを検討する必要がある。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の実績数を基に類似団体平均値を算出しています。